

将来収支シミュレーションの考え方

1 シミュレーションの方法

① 長期収支見込

期間：H22～H89

収入 木材販売、補助金、新規借入金、その他

支出 直接事業費、間接費、分収交付金、償還元金・利息、その他

② 最終収益



2 シミュレーションのケース

	伐採対象	分収方式
現 行	・ 皆伐	・ 収益分収比率 6 : 4
見直し後 (案)	・ 非皆伐 (抜き切り) ・ 採算林 (不採算林等と区分)	・ 抜き切り後の材積分収を導入 ・ 収益分収比率を変更

※ なお、分収方式の見直しに応じて複数案を作成

3 シミュレーション上の構成因子

	内 容
木材販売収入	・ 伐採時の立木販売により得られる売上額 ・ 木材価格 (県木材市場平均価格等 直近5年平均) × 収穫予想材積 (県材積表を補正)
補助金	・ 保育および作業道開設等、直接事業費への補助金 ・ 間接費および支払利息への補助金
新規借入金	・ 直接事業費および間接費にかかる借入 (日本政策金融公庫、県)
直接事業費	・ 保育、作業道開設、利用間伐等にかかる経費
間接費	・ 人件費、事務費等の一般管理費
分収交付金	・ 立木販売による収益の土地所有者への配分
償還元金・利息	・ 新規借入金および既往債務の支払元金・利息 (日本政策金融公庫、市中金融機関、県)
森林勘定 (H21 まで)	・ これまでの分収造林事業に要した直接事業費および間接費から補助金等を控除した額 ・ 平成 21 年度末森林勘定 497 億円 (債務残高 497 億円)